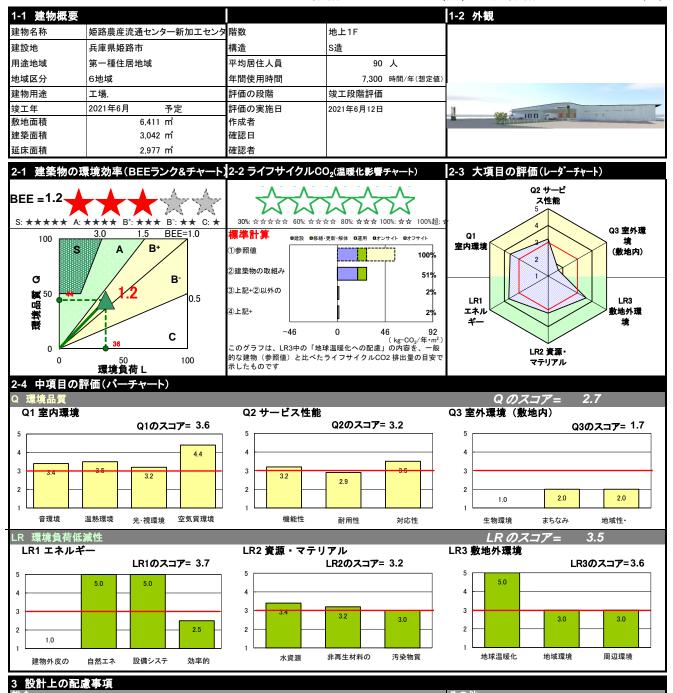


·建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)



太陽光発電パネルを屋根全面に設置して自然エネルギーの利用すること、高効率設備を採用することで、省エネル 農産物を取り扱う生産エリアには、衛生面に配慮して、 ギー化に配慮した。 ゾーニング空調が可能で高効率中温用ツインマルチエア コンを設置した。 Q3 室外環境(敷地内) 内装仕上げは全面的にF☆☆☆☆を使用。換気扇は全熱交 事務室の広さと天井高さを確保。大スパン架構が可能なシ 威圧的な外観にならないように、建物形状、外壁の色彩 換器を採用。生産エリアとの界壁に遮音性能を持たせ ステム建築を採用し、空間の自由さにゆとりを持たせた。 十分な天井裏スペースが取ることで、設備の更新制に配慮 などを配慮した。グラスパーキングを採用し、緑地を確 保した。 LR1 エネルギ-LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境 屋根全面に太陽光発電パネル(363kW)を設置し、自然 自動水洗、節水型便器を採用し水資源保護に配慮した。躯 燃焼機器を使用せず大気汚染防止に配慮した。 エネルギーの利用に配慮した。 体と仕上げ材が容易に分別可能な乾式工法を採用した。

- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- Q: Quality(建築物の環境品質)、L: Load(建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction(建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency(建築物の環境効率) ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される